

# 姫路電子(株)

永久磁石製造販売

【本社・工場】兵庫県姫路市白浜町乙341

TEL.079-245-0266(代) FAX.079-246-1494

【大阪営業所】大阪府大阪市中央区東平2-5-7 上六ビル801

TEL.06-6764-4034(代) FAX.06-6764-7521

【東京営業所】東京都千代田区神田小川町2-12 信愛ビル3F

TEL.03-3518-8800 FAX.03-3518-8807

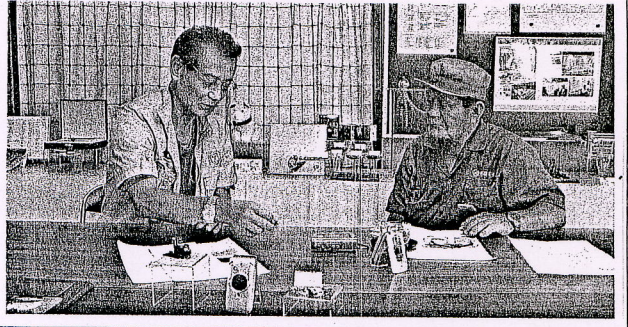
http://www.himejidenshi.co.jp

代表取締役

インタビュー

網嶋重昭 × 清水章吾

【俳優】



INTERVIEW  
SHIGEAKI AMISHIMA × SHOGO SHIMIZU

## 永久磁石を使用した多様な製品を開発し、ニッチ市場への展開に取り組む



も磁石が利用されているのですか。

網嶋 ええ、磁気の働きで水やウイスキーなどがまろやかな口当たりになります。更にこのパンツは医療用具認可を受けた商品ですが、これにも磁気治療器が使われているのですよ。他に家庭用ゲーム機などにも当社の製品が利用されています。

清水 本当にありとあらゆる製品に姫路電子(株)さんの部品が使われているのです。では、社長が会社を起こされるまでの経緯をお聞かせ願えますか。

網嶋 私は大阪府立大学工学部を卒業後、丸紅(株)に就職したのですが、二十七歳で結婚したのを機に実家に戻り、父親が経営する鉄工所の片隅で磁石を使った製品開発に取り組み始めました。そして昭和四十五年、三十三歳の時に当社を設立しました。

清水 初めに開発された製品は。  
網嶋 電話機用のマグネットです。今と違って電話は電電公社の専売制でしたし、より高性能で安いものに仕上げれば売れるだろうと考えてのことでしたが、結果として国内向け、東南アジア向けを含めて当社が独占するまでの事業に成長しました。

清水 すごく実績ですね。磁気治療器分野に取り組まれた経緯も教えてください。  
網嶋 当社のような中小企業が生き延びていくためには誰も開発していない商品を世に出さなければなりません。そこで試行錯誤を重ねながら生み出したのが、磁気治療器用のマグネットだったのです。ちなみにぴかっと光るタイプの磁気治療器がありまして、この光るマグネットも世界で初めて当社が開発したものです。

清水 誰も思い付かない製品作りに挑むには様々な苦労もあったのでは。

網嶋 そうですね。新製品を作るための必要な機械も自社で作るといった日々の繰り返しで、苦労がなかったといえれば嘘になります。これは三十代の頃の話ですが、作業用ロボットを開発していて、髪の毛がすっぽり抜けたことがありました。お医者さんから「頭を使うな」と言われましたが、私を頭を使わないと会社は倒産しますしね。結局、仕事だけでなく遊ぶことも大切と遊びの時間を確保するようになりました。そして二年掛かりましたが、ご覧のように髪の毛も戻り遊びの面白さも発見できました。

清水 今も何かご趣味はありますか。  
網嶋 最近ではカムチャッカ半島を一周間掛けて踏破しましたし、週に三回はジムに通い、四国八十八カ所巡りも継続中です。ダイビングやゴルフも時々楽しみ、英会話教室にも十年前から通い続けています。

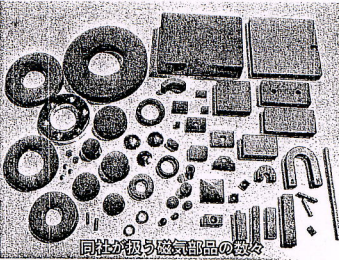
清水 非常にバイタリティーがありますね。さて、仕事ではものづくりひと筋に歩んでこられた社長ですが、これまでの人生を振り返っていかがでしょうか。

網嶋 いろんな意味でツキに恵まれていたと。電子部品は時代の変遷で需要が激減するものもあります。一例を挙げると、テレビのブラウン管用マグネットなどがそうでした。国内の七割を当社製品が占めていたのですが、薄型テレビの登場で需要が激減してしまいました。現在は携帯電話やデジタル用部品の需要が好調な伸びを示していますが、いつ時代の終焉を迎えるか分かりません。しかしながらあわや倒産かと思う状況に遭遇しても新製品開発で危機を乗り越えてこれたわけで、大袈裟かも知れませんが運命の神様のご加護を感じますね。

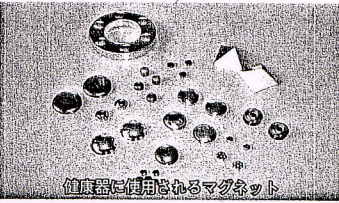
清水 最後に今後の展望を。  
網嶋 同業他社が淘汰される時代、現在は当社を含め三社が協同路線を敷くことで互いに生き残りを図っていますが、とにかく当社は小さいもの、難しいものをとことん追求し続けるしかないと考えています。

### ◇INFORMATION

高度な技術により携帯電話や医療機器、電子部品など様々な分野に展開。



同社が開発する磁石製品の多様性



医療器具に使用されるマグネット

